

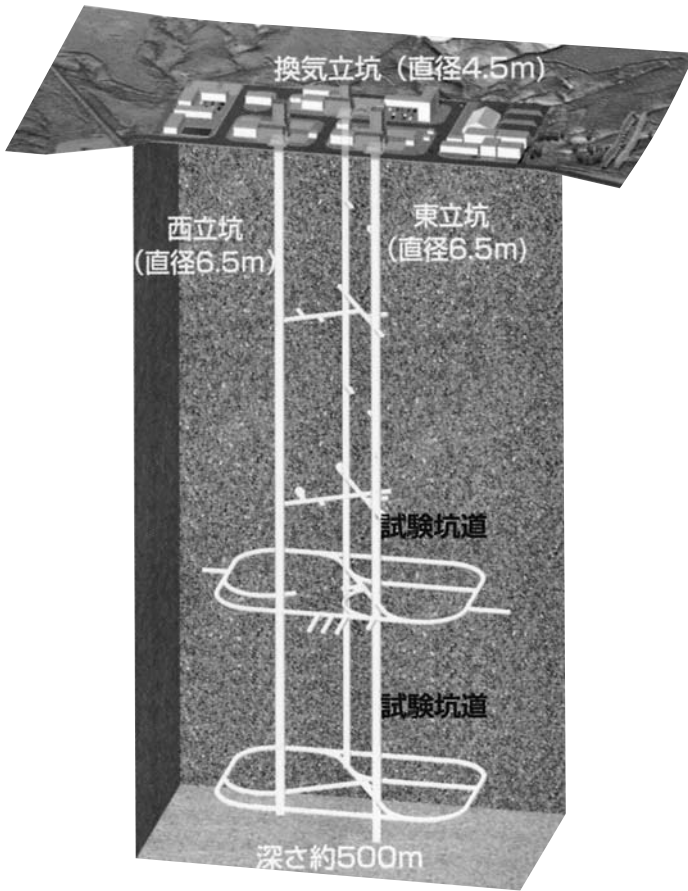
深地層研究センター立地により、町内で進められている研究事業をご紹介いたします

幌延町では、昭和59年に町議会で原子力関連施設の誘致を議決して以来、一貫して「国の原子力政策に協力し、併せて地域の振興を図る」ための要

望活動を続けてきました。平成12年に北海道、幌延町、核燃料サイクル機構（現在の日本原子力研究開発機構）の三者による「深地層の研究に関する協定」が結ばれたことにより、平成13年に幌延深地層研究センターを開所し、ボーリング調査を開始されました。平成17年には現在の北進地区で

地下施設の掘削工事が始まり、現在に至っています。町内では、深地層研究センターでの研究事業を始め、これに関連して

様々な研究事業が行われています。今月号では、それらの研究事業や関連事業についてご紹介いたします



地下施設イメージ図

このイメージ図は、今後の調査研究により見直すことがあります。

深地層研究

独立行政法人日本原子力研究開発機構では、平成17年度から北進地区で地下研究施設の掘削工事を始めています。この地下施設は、3つの立坑からなり、現在は換気立坑と東立坑が掘られています。平成20年度は換気立坑を地下250m、東立坑を地下140mまで掘削予定で、7月31日現在、東立坑140m、換気立

坑210mまで掘削しています。最終的には地下500m程度に達することになります。

この研究は、原子力発電によって出てくる高レベル放射性廃棄物の安全な地層処分のための地層環境調査技術の開発や、地質環境モニタリング技術の開発、深地層でのコンクリート応力といった工学技術の開発、地下環